

全国に発送しました



目次 Contents

役員道内視察研修	2~3
農林水産省職員農村研修	4
農林水産省および国会議員への中央要請	5
青年部（根室地区大会）	6
中春別乳牛改良同志会講習会	6
別海高校への出張授業の実施	7
女性部活動・お歳暮実績報告	8

クロスブリーディング牛紹介	9
別海高校活動報告	10
営農対策情報	11
生乳課情報	12
理事会・乳質乳価	13
年末年始営業について	14
クロスワード	15
自動車共済の安心サービス	16

令和4年度

役員道内視察研修

令和4年度役員道内視察研修を10月18日(火)から10月20日(木)までの3日間の日程で、望月組合長を団長に役員8名、職員2名参加のもと札幌方面において行いました。

今回は、第12次中期経営計画において事務所建設の具体化を進める為、基本的な取り組みについて「(株)北農設計センター」による研修、近年事務所を建設された「JAびらとり本所」を視察しました。また、農協を取り巻く情勢について「中央会」による研修を実施しました。



農協向け監督指針の見直しは、自己改革実践サイクルの取り組みとして、農業所得向上のための自己改革実践の具体的な方針、農協全体及び事業別の中長期シミュレーションによる経営基盤強化等を事業計画に反映・実践し、組合員との対話を通じ毎年事業計画に織り込むこととなった。

早期警戒制度は、最低所要自己資本比率を上回る金融機関に対し、ヒアリングや必要に応じ報告徴求等を実施し、早め早めの経営改善を促す枠組みであり、健全で持続性のある経営の確保、自己改革実践サイクルを着実に進めることが、早期警戒制度への対応となる。

第5次男女共同参画基本計画において、女性役員の登用がされていない農協数を2025年までに0に、役員に占める女性の割合を2025年までに15%の成果目標が令和2年12月に閣議決定され、女性役員登用にに向けた検討が必要となる。

規制改革推進会議において、農協改革はフォローアップ項目とされており、事業計画に反映された達成度や経営基盤強化、組合員との対話実績が問われてくるため、自己改革実践サイクルに取り組み、持続可能なJA経営基盤の確立・強化・健全性確保が必要であると確認しました。

10月18日(火)

(株)北農設計センターは、昭和58年5月に各連合会が出資し北海道農業グループ内系統の建築設計事務所として設立され、農協の事務所・店舗をはじめ農業施設等3,600件を超える設計の実績と成長している。また、新しい時代の建築のかたちとして3年前よりBIM【ビム (Building (建物を) Information (情報で) Model (形成する))】を導入、建築物をコンピューター上の3D空間で構築し、企画・設計・施工・維持管理に関する情報を一元化する手法を活用、顧客との連携強化を図れる体制を整えるなどDX推進にも取り組んでいる。

事務所建設には、総会での承認・業者選定・設計・建設・完成まで約3年は要することから、地域の在り方や取り巻く情勢等の検討を含め、早い段階から取り進めする必要があり、具体化に向けては組合員・職員等との協議・検討を十分に行うことが重要であると認識いたしました。

農業・JAを巡る情勢は、人口減少や高齢化に伴い、国内の市場規模は減少し世界の農産物マーケットは拡大する可能性から、輸出促進により世界の食市場を獲得していくことが重要。また、今後一層の担い手減少が見込まれ、労働不足等の農業生産基盤の脆弱化が深刻な課題となっている。



新事務所建設のコンセプトは、人と人をつなぐ「地域の架け橋」となるJAびらとり、①地域の生活を支え続けるJA ②誰もが来やすい開かれた農協 ③地域に寄り添い、新たな交流を生む空間 ④人々が集う地域に親しまれる広場の4つのテーマを掲げ建設されている。

事務所建設の具体化を進めるにあたり、どの様なコンセプト・テーマを掲げ、取り進めるかが重要であることを認識し、他JAへの視察などを行い具体化に向け検討して参ります。



10月19日(水)

JAびらとりは、今後予測される組合員の高齢化及び農家戸数の減少など情勢変化の対応、更には現在の地域農業の基盤・JAの事業基盤を維持するため「JA平取町」と「JAとみかわ」が平成27年2月に合併。日高管内西部の平取町・日高町にまたがり「ニシパの恋人」でお馴染みのトマトや「びらとり和牛」をブランドとした肉牛生産、トマトジュースを中心とした加工品も全国的に流通している。

新事務所建設の経緯については、旧事務所は昭和41年に建設され増改築を繰り返し築50年が過ぎ事務所も狭く老朽化も著しいことから、平成27年2月の合併を機に新築を決断された。平成28年4月の通常総会にて、新事務所建設の固定資産取得計画が承認される。平成28年12月設計が完成し、翌年より建設業者の入札を実施、平成29年3月工事が開始され、平成29年10月に完成引渡と約3年を経て新事務所が完成。



農林水産省 農村研修

農林水産省では、入省して数年の若手職員を対象に農村研修を例年行っており、今回、農林水産省大臣官房広報評価課広報室企画班第2係の伊藤葉子（いとうようこ）職員が山田晃嗣牧場（美原地区）へ10月17日（月）から10月31日（月）にかけて2週間の農村研修に入られました。

今年から広報室に異動となった伊藤さんは、農水省の広報活動を行うにあたり、生産現場の現状や課題、農水省の施策等が生産現場へどれくらい浸透しているか、生産者が農水省へどのようなことを期待しているかなど、業務を行う上での疑問点を学びたいことから、農村研修に参加を決めたそうです。

農作業を体験した感想としては、とにかく体力的にキツイということが印象に強く、過去一番を思わ



せる程の全身筋肉痛になったそうです。また、スーパードで気軽に牛乳を買える一方で、生産現場がこんなにも過酷であるということの二面性におけるギャップを感じたとのことでした。それと同時に牛の可愛さにも魅了をされ、2週間を通じて心が綺麗になった気がすると話されておりました。

また、農村研修期間を利用して、農協青年部との交流を兼ねたロールバックメッセージの製作作業に参加いただき、今回はロール貼り作業を

一緒に行いました。作業をしながらも、農業情勢の話題の他、出身地やプライベートな話をしながら部員と交流を図っておりました。

今回の研修を通して「短い期間でしたが、多くの方々の支えもあり無事に研修を受けることができました。ありがとうございます。皆さんの牛に対する愛情や酪農に対する熱意を肌で感じ、学べた2週間は私の宝物であり財産です。今後は現場を大切に業務に携りたいと思います。」と話してくれました。

農村研修を通じた、この繋がりを絶やさずに、今後も良い関係性を築けられればと思います。2週間大変お疲れ様でした。



農林水産省および国会議員への中央要請

令和5年度農林水産予算概算要求に係る意見交換並びに国会議員への中央要請を実施



令和5年度農業関係予算に係る中央要請運動として農業予算確保に向けた各種対策への提言や要望等を限られた時間の中で精力的に実施いたしました。

中春別酪農対策協議会（山崎浩二会長）による農政運動を11月14日（月）～15日（火）および11月28日（月）～30日にかけて実施いたしました。



11月14日には地元選出道議および北海道農政部との意見交換を実施し、山崎会長より当地区の近況や概要について説明を行い、生乳入口・出口対策の強化、加工原料乳生



産者補給金及び集送乳調整金の適切な単価設定・交付対象数量の確保、高騰する各種資材価格に対する支援策の継続等について意見交換をおこないました。

国会議員への要請については、道内選出の衆議院議員および参議院議員を中心に要請をおこない、特に加工原料乳生産者補給金及び集送乳調整金の適切な単価設定、生乳入口・出口対策の強化等について要請をいたしました。また、農水省畜産局局長および農水省大臣官房畜産局担当審議官へ現場の厳しい状況を伝え、より効果的な政策が実施されるよう政策提案書の提出をいたしました。

（道議および道農政部 要請者）

中春別酪農対策協議会

会長 山崎 浩二

副会長 牧野 修二

J A 中春別

理事 片野 大介

事務局 天野 拓弥 計4人

（中央要請 要請者）

中春別酪農対策協議会

会長 山崎 浩二

副会長 平井 優一

J A 中春別

理事 片野 大介

事務局 天野 拓弥 計4人

若い力を結集して未来の酪農郷を築こう！

Y o u t h A s s o c i a t i o n

根室地区JA青年部大会

Moving it ~眼前的困難を乗り越える~

「Moving it ~眼前的困難を乗り越える~」と題した根室地区JA青年部大会が11月7日(月)ウエディングプラザ寿宴にて開催され、3年ぶりの実開催となる大会に地区内の盟友が一同に集いました。

根室地区青協の佐藤克幸会長より挨拶があり大会が始まりました。



最初に、JAけねべつ青年部による「“Let's study!” ~出前はじめました~」と題した活動実績発表が行われました。平成29年から行っている地元学校を対象とした食農教育活動にまつわる取り組みを発表しており、地域との繋がりを重視した青年部が、5年間に渡る出前授業を通じて地域全体と一丸となっていく姿が見受けられる素晴らしい内容となっております。JAけねべつ青年部は12月上旬開催の全道JA青年部大会へ出場となります。



活動実績発表後は休憩を挟み、本来であれば、例年会場を盛り上げている取り組みの一つである、「アームレスリング大会」を観戦しながら昼食を予定しておりましたが、新型コロナウイルス感染対策の観点から中止となってしまいました。

休憩後は、株式会社マドリンの角倉円佳氏を招き「私たちの牧場にはパッションしかない！」と題して講演会が行われました。自身の牧場を運営しながらも、「北海道農業士」や「SAKURA会代表」、「農水省食料・農業・農村政策審議会員」といくつもの活動を行っている角倉氏の取り組みや、近年農業において重要視されている「農場HACCP」の認証取得の経緯や手応え、また、牧場の取り組みや自身が取り組み続けている農業女性が集うイベントや地域活動などの紹介をされ、盟友一同、今後の酪農の刺激となる貴重なお話をいただきました。

また、本大会を活用して、70周年の節目を迎えた根室地区青年部スローガンを一度改めることを目的とした、新活動スローガンの投票も行っており、3つの候補から選ばれた新活動スローガンには「Bright Future ~新たな時代へ~」が採用されました。

令和
4年度

中春別乳牛改良同志会講習会

ゲノミック検査について学びました

中春別乳牛改良同志会（寺澤佳吾会長）では更なる酪農経営の発展を目指し、乳牛改良の応用としてゲノミック検査の活用方法について学習することを目的とし、11月2日(水)に株式会社アグネフィット代表取締役、竹田秀臣氏をお招きし、講習会を開催いたしました。今回は当同志会会員のみなならず青年部会員にも参加していただき、実際にアグネフィットでコンサルティングを行っている酪農家のゲノミック検査の活用方法等々、実例を交えながらお話しをしていただきました。参加者からも様々な意見、質問が出て有意義な講習会となりました。



別海高校への出張授業の実施



11月18日(金)別海高校にて、酪農経営科の生徒を対象とした出張授業が開催され、当J Aより下地営農部長と佐々木職員が講師として参加しました。

今回の出張授業は、(株)日本農業新聞が主催し、地域農業やJ Aに対する関心の向上や、教育現場における生徒の活字へ触れる機会を増やすことを目的に企画されております。

出張授業と付随して生徒には、10月より2ヶ月間、日本農業新聞を学習教材として、J A中春別とJ A道東あさひの2 J Aより提供しており、提供期間中における新聞記事に関するレポートの作成や、(株)日本農業新聞職員による記事スクラッ



プ研修(グループワーク)、J A職員出張授業を通じて、レポートを書く力や意見の集約力、コミュニケーション力の向上に一助しております。

今回の出張授業では、地元J AであるJ A中春別とJ A道東あさひによる2部構成の授業となっており、各J Aの事業概要や協同組合の基本的な部分に触れた動画に基づく説明、J A青年部についての話などを生徒に向けて講義しました。

真剣に話を聞く生徒の姿は、とても関心的に感じました。今回の取り組みを通じて、少しでも地域農業やJ Aに対する関心が高まり、地域の基幹産業である酪農の活性化に繋がればと思います。



助け合い、支え合い、知恵を出し合い活動

Y o n g w o m e n ' s D i v i s i o n



憩いの場所でした



11月9日(水)、木の
実部会では別海町生
涯学習センターみな
くるを視察訪問し、
館長の新堀光行氏の
案内のもとセンター
内を隅々まで見学し
てきました。
部員からは、どの
くらいの利用料がか
かるのか。誰でも利
用出来るのかという
質問が出るなど、皆
さん楽しそうに見て
いました。

趣味の会

パウンドケーキを作りました



11月18日(金)に趣味の会でパウ
ンドケーキを作りました。
栗・胡桃・チョコチップ等を
ふんだんに使用し、とっても甘
いパウンドケーキが沢山出来あ
がりました。
団地セン
ターの廊下
には焼きた
ての香ばし
い匂いが広
がり、とて
も美味しく
出来あがり
ました。



青年部・女性部

梱包作業・発送しました

青年部・女性部合同お歳暮ギフトセットの
梱包作業を12月2日(金)に行いました。

Aセットはスイートポテト・なかしゅん
ロール・べつつかいのバターどら焼き、Bセッ
トは乳業興社乳製品セット、Cセットは牛
サーロインステーキとバター、新商品のキタ
ウシリ牛ハンバーグとキタウシリ牛とろフ
レークをセット内容とし、ミスもなくスムー
ズに梱包作業をすることができました。

今後も青年部・女性部でより一層協力し合
い、更なる消費拡大を図って参りますので、
ご協力の程よろしく致します。

セット受注結果は下記の通りとなりました。

Aセット (スイーツ)	105セット
Bセット (牛乳・乳製品)	83セット
Cセット (肉・バター)	148セット
合計	336セット

沢山のご注文をいただき、誠にありがとうございました。



クロスブリーディング牛

こんなに大きくなりました

組合だより(2022年)3月号で紹介しました2頭が、順調に成長しています。



2月14日生まれの赤白



1月30日生まれの黒白

(株)なかしゅんべつ未来牧場研修センターで1月30日、2月14日に生まれた交配種(ホルスタイン×モンベリアード)の2頭の子牛は現在約10カ月齢となりました。

体高は1月30日生まれの黒白が約127cm、2月14日生まれの赤白が約122cm(11月26日測定)で胴回りがしっかりして

おり、顔が白いモンベリアードの特徴も相まって、牛群の中でも一目でわかります。

2頭は15ヶ月齢頃から3元交配をするため、カナディアンエアーシヤ精液での人工授精が行われる予定です。

今後も2頭の成長過程や、繁殖・分娩・搾乳能力などの情報提供を行っていきます。



北海道別海高等学校

酪農経営科・専攻科だより

12月号

●【酪農経営科】農業クラブ役員選挙

10月14日(金)に農業クラブ役員選挙が行われました。立候補者は、農業クラブ執行部として何ができるのかなど、聴衆者にしっかりと自分の思いを伝えていました。



演説の様子

新農業クラブ会長に選ばれた2年庄司敬貴さん(西春別中身)は「これからの農業クラブ活動をより一層盛り上げていきたい、執行部だけでなくクラブ員と一緒に行事を作り上げていきたい」と意気込みを語ってくれました。



聴衆者の様子

●【酪農経営科】農業クラブの全国大会参加

10月26日(水)から10月27日(木)の2日間で行われた第73回日本学校農業クラブ全国大会令和4年度北陸大会に、本校から3年生の阪本 愛斗さん(中央中出身)が農業鑑定競技会、分野畜産に出場しました。阪本さんは、「人の多さに圧倒されてしまった。初めての大きな大会で緊張してしまい学習の成果を発揮することができなくて悔しかった。全国大会に出場できたことはいい勉強になった。」と語ってくれました。令和5年度の全国大会は熊本県で行われます。



全国大会の様子

●【酪農経営科】ハロウィンのランタン制作

ハロウィンに向けて、1年生7名が、ランタンの制作を行いました。それぞれ好きなカボチャと絵柄を選び、慣れない手つきで制作に取り組みました。



ランタン作成の様子

完成したランタンは、生徒玄関前に飾り、夜にはライトアップして、ハロウィンの雰囲気を取り上げてくれました。



●【専攻科】視察研修会報告(前編)

10月12日(水)~14日(金)の3日間、酪農技術現地研修会を実施しました。毎年全道各地の先進農家を訪問し見聞を深めているもので、今年は十勝方面の視察を行いました。

1日目は足寄町のありがとう牧場を訪問しました。牧場主の吉川友二さんから、放牧酪農における草地の変化の過程やメリット、牛群管理や季節繁殖について詳しく解説していただきました。学生からは「循環農法により、土と牛・糞尿・草が循環していることなど、持続可能な農法について学習することができました。」



ありがとう牧場視察

「吉川さんの話が面白くアツという間に時間が過ぎてしまい、もっと聞きたかったです。」という感想がありました。

2日目は、大樹町の4軒の酪農家を視察させていただきました。最初に、乳牛管理学でWEB講義をしていただいた開進にある山下牧場を訪問し、山下陽子さんからご説明を受けました。山下さんは子牛の発育について独自に調査研究し、全国青年農業者会議畜産部門プロジェクト発表で農林水産大臣賞を受賞するなど意欲的に取り組まれています。「牛をおかずに飯がくれるくらい牛が愛おしい」と話されていたのが大変印象的でした。山下さんならではの発育チェックポイントなど、飼育管理方法について学ぶことができました。学生からは「牛に対する熱量がすごい。」「山下さんを見習い、牛をより理解できるように日々観察していきたいと思う。」という感想がありました。



山下牧場視察

次に訪問したのは、山下牧場のお隣にある木村牧場です。木村牧場は親子で宇都宮賞を受賞され、毎年共進会に多数出品・入賞されています。牛がとても綺麗な状態で管理されていることもさることながら、昭和初期の牛舎や枕木で造られたバンカーサイロ、古いトラクターなど丁寧に手入れし、長く利用されているのが印象的でした。学生からは「体型レベルの高い牛が特別に飼育されているわけではなく、普通にスタンションに繋がれていたのに驚いた。」「牛群のレベルが高いうえに長命・連産の牛群づくりをされていたので、自分も少しでも近づけるよう努力したい。」という感想がありました。



木村牧場視察

続き(後半)は、来月号でご報告いたします。



1 令和4年のチモシー生育と収穫作業について

本年の牧草の萌芽期は、平年よりも3日早まりましたが、チモシー1番草の出穂始と出穂期は、ほぼ平年並となりました(表1)。本年の気象は6月から8月にかけて降雨量が多かったことから、収穫終は、平年よりも4日程度遅くなりました(表1、2)。

表1 チモシー1番草の生育期と収穫作業(根室管内)

年次	TY生育期			1番草収穫作業		
	萌芽期	出穂始	出穂期	収穫始	収穫期	収穫終
R2年	4/25	6/14	6/17	6/19	7/4	7/17
R3年	4/16	6/13	6/18	6/14	6/24	7/10
R4年	4/19	6/15	6/19	6/19	7/1	7/17
平年	4/22	6/14	6/18	6/19	6/30	7/13

注) 普及センター調べ。
収穫始: 5%収穫、収穫期: 40~50%、収穫終: 90%

表2 1番草収穫時の天候

年次	6/20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
R2年	●	○	●	○	○	●	●	●	●	●	●
R3年	●	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○
R4年	●	○	○	○	●	○	○	●	●	●	○

年次	7/1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
R2年	●	●	●	○	○	○	○	●	●	○
R3年	○	○	○	○	●	●	●	●	○	○
R4年	○	○	●	●	●	○	○	●	●	●

注) 別海町アメダスデータより ●は降水日、○は無降水日

2 1番草サイレージの栄養価

根室管内のサイレージ分析値(ホクレン分析)水分含量65%以上(中高水分サイレージ)、65%未満(低水分サイレージ)に分類した結果は、次のとおりです(10月下旬までの分析)。CP、TDN、NDF(繊維含量)成分のばらつきが、前年に比べ総じて大きい傾向にあります。本年の収穫始は平年並でしたが、収穫期以降に降雨の日が多かったことから、収穫作業の判断が難しい年であったと思われます。

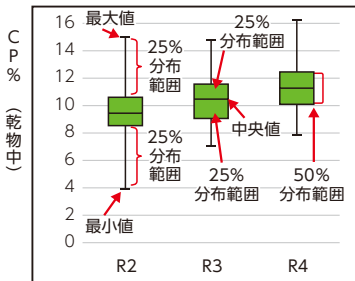


図1 中高水分サイレージのCP

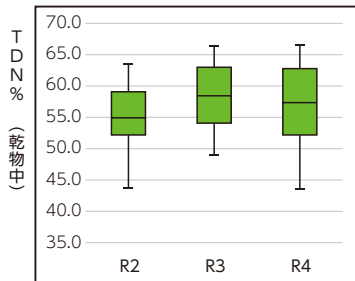


図2 中高水分サイレージのTDN

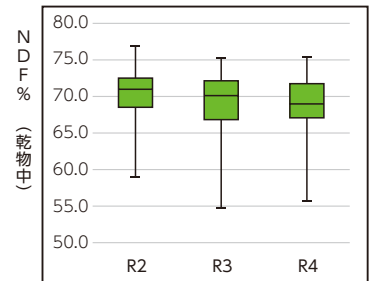


図3 中高水分サイレージのNDF

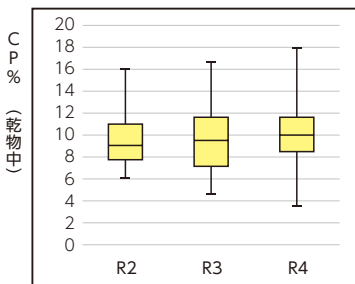


図4 低水分サイレージのCP

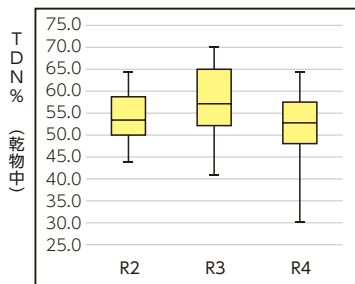


図5 低水分サイレージのTDN

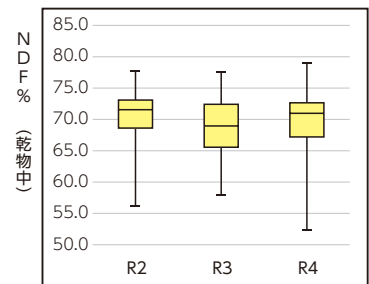


図6 低水分サイレージのNDF

3 粗飼料分析結果から来年のサイレージづくりを考える

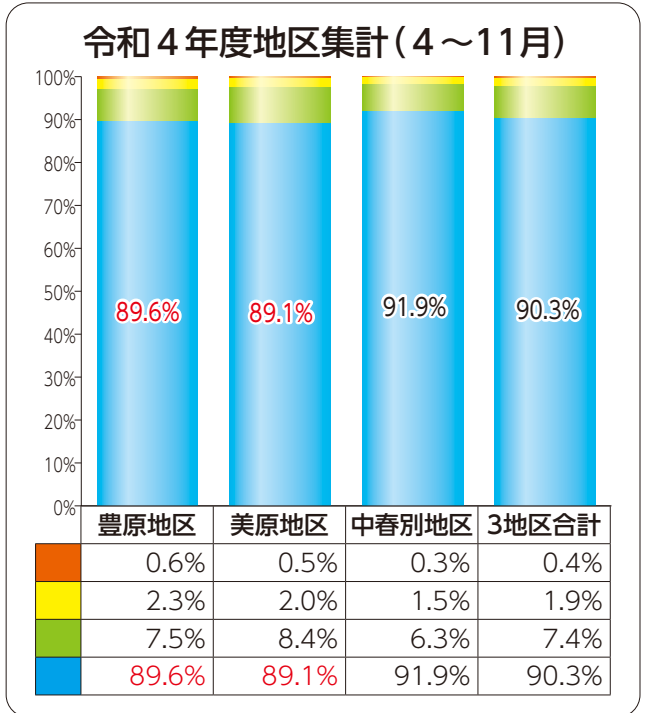
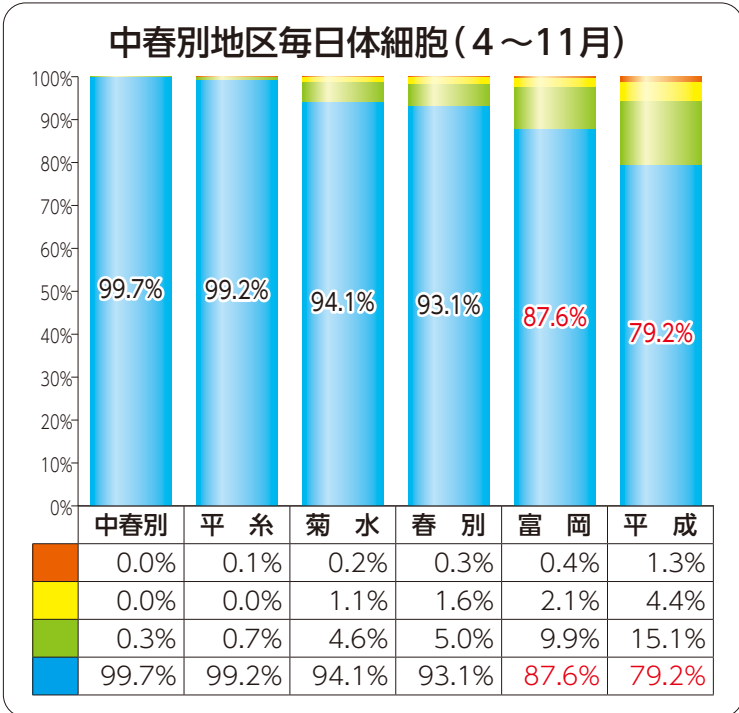
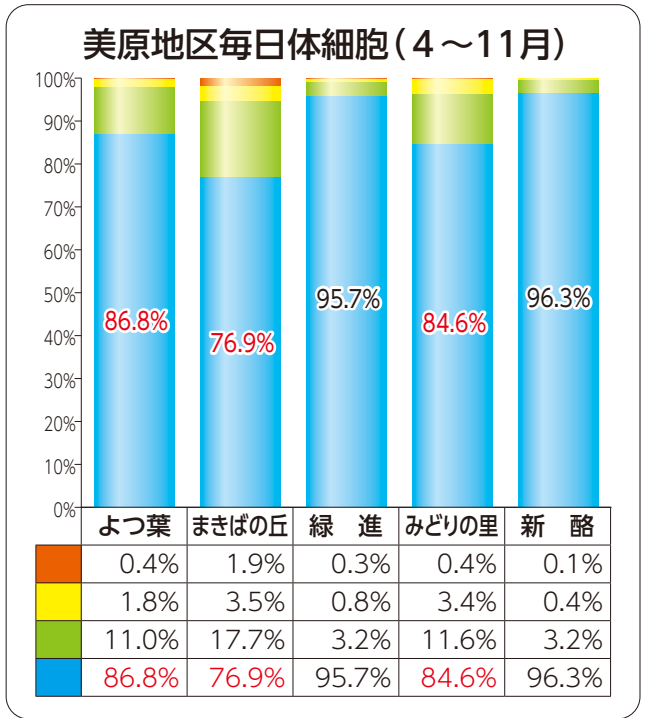
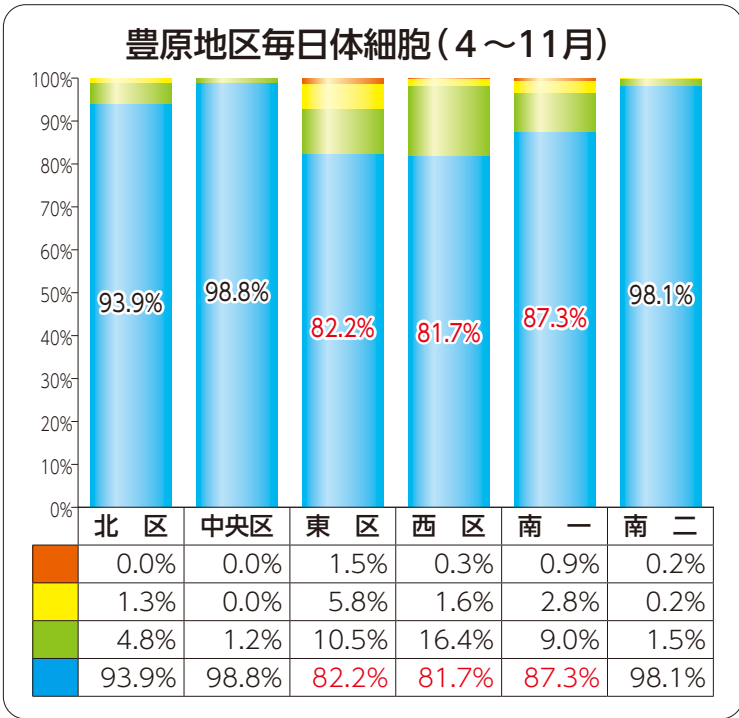
粗飼料分析から栄養価を数値で確認しましょう。我が牧場の分析データを上記のグラフと照らし合わせ、**栄養価レベルを把握することが重要です**。栄養価が、サイロやほ場によって大きく変わる場合は、牛の反応を確認しながら、すみやかに飼料の組み合わせを微調整します。また、栄養価が不良の場合は、改善に向けた具体的手段(植生改善、施肥管理、収穫時期、サイレージ調製方法など)を明確にし、来年の営農計画や技術改善に活かしましょう。

生乳汚染事故を無くそう!

令和4年11月30日現在	JA中春別発生	管内合計件数
抗菌性物質混入事故	1件	7件
生菌による汚染事故	0件	0件
異物混入、加水、血乳による汚染事故	0件	1件
異臭、異常風味による汚染事故	0件	0件

**毎日数頭の
CMT液検査で
乳質コントロールを!!**

良質生乳生産推進委員からの標語



凡例： 50.5万以上 40.5~50.4 30.5~40.4 30.4万以下

第10回 理事会の動き

令和4年11月25日(金)

報告事項

- 1 令和4年度9月末定期監査報告について
- 2 組合員の加入について
- 3 組合員の脱退について
- 4 令和4年度9月末子会社における監査報告について
- 5 固定資産実査の終了について
- 6 J A 共済相談・苦情等対応状況について
- 7 令和4年度10月末営農関連実績について
- 8 令和4年度環境負荷軽減型酪農経営支援事業について
- 9 特定疾病感染状況について
- 10 固定資産の除却について

議案

- 1 年末・年始の業務日程について
- 2 固定資産の取得について
- 3 令和4営農年度財産造成に伴う資金の借入・貸付について
- 4 令和4営農年度農林漁業セーフティネット資金の貸付について
- 5 令和4営農年度クミカン取引に係る貸越極度額及び供給限度額の変更・認定について
- 6 クミカン取引名義変更について
- 7 特定疾病感染補償互助会の支払いについて

10月乳質乳価一覧表

		単価 (円)	算出基礎 (kg)	支払乳価 (円)	前年同期 (円)	差 (円)
乳脂肪分		966.147		39.45	38.89	0.56
無脂乳固形分		613.131		54.05	53.99	0.06
生産者補給金		6.1531		6.15	6.15	0.00
集送乳調整金		1.9294		1.93	1.93	0.00
補給金合計		8.0825		8.08	8.08	0.00
乳質 単価	生菌数	ランク1	2	3.75	3.74	0.01
		ランク2	0			
		ランク3	-3			
	体細胞数	ランク1	2			
		ランク2	1			
		ランク3	-2			
合計				105.33	104.70	0.63

10月生乳受託実績表

項目	単価(円)/(kg) %	
乳脂肪分①	39円45銭	
無脂乳固形分②	54円05銭	
生産者補給金③	6円15銭	
集送乳調整金④	1円93銭	
脂肪率	全道	4.08%
	農協	4.17%
無脂固形分率	全道	8.82%
	農協	8.78%
成分乳価 (①+②+③+④=⑤)	全道	101円58銭
	農協	102円19銭
乳質乳価⑥	全道	3円75銭
	農協	3円78銭
乳代合計 ⑤+⑥	全道	105円33銭
	農協	105円97銭
	差異	0円64銭

区 分	令和4年		令和5年							
	12/30(金)	12/31(土)	1/1(日)	1/2(月)	1/3(火)	1/4(水)	1/5(木)	1/6(金)	1/7(土)	
事 務 所 (信用除く)	午前中のみ 業務									御 用 始
事務所信用窓口	平常業務					平常業務	平常業務	平常業務		
Aコープ中春別	9時30分~15時 営業				9時30分~15時 (店頭販売のみ)			9時30分~15時 (店頭販売のみ)		
給 油 所	8時~17時 (給油・配送)	8時~15時 (セルフのみ)			9時~15時 (給油・配送)	9時~15時 (給油・配送)	9時~15時 (給油・配送)	8時~17時 (給油・配送)		
倉 庫	平常営業					平常営業	平常営業	平常営業		
訪問介護事業所 「あさひな」	平常業務					サービス 提供のみ	サービス 提供のみ	サービス 提供のみ		
人 工 授 精	平常業務	午前中のみ 業務	午前中のみ 業務	午前中のみ 業務	午前中のみ 業務	午前中のみ 業務	午前中のみ 業務	午前中のみ 業務		
生 乳	抗生物質 検査のみ	抗生物質 検査のみ	抗生物質 検査のみ	抗生物質 検査のみ	抗生物質 検査のみ	平常業務	平常業務	平常業務		
備中春別マシンセンター	午前中のみ 営業						午前中のみ 営業	午前中のみ 営業	御用始	
備ジェイエー・ワンブ	午前中のみ 営業								御用始	
備なかしゅんべつ未来牧場 共和育成センター 全酪連育成センター 酪農研修センター	平常業務	平常業務	平常業務	平常業務	平常業務	平常業務	平常業務	平常業務	御用始	

■ATM稼働日について

区 分	令和4年		令和5年						
	12/30(金)	12/31(土)	1/1(日)	1/2(月)	1/3(火)	1/4(水)	1/5(木)	1/6(金)	1/7(土)
当JA ATM	平常稼働					平常稼働	平常稼働	平常稼働	平常稼働
ゆうちょATM	平常稼働	8時~21時 稼働	8時~21時 稼働	8時~21時 稼働	8時~21時 稼働	平常稼働	平常稼働	平常稼働	平常稼働
コンビニATM (セブン銀行等)	平常稼働	8時~21時 稼働	8時~21時 稼働	8時~21時 稼働	8時~21時 稼働	平常稼働	平常稼働	平常稼働	平常稼働

◎販売関連業務

- (1)初生トク集荷
年内最終集荷…12月30日
年明集荷…1月6日
- (2)ホクレン市場
最終開催日…12月28日 (初生のみ)
年明開催日…1月11日

◎牧場関連業務

- 哺育・育成集荷
年内最終集荷…12月30日
年明集荷…1月7日

◎人工授精業務

- 午前中のみ業務、午後から休業

JA共済 自動車共済の安心サービス

ご契約の自動車が事故や故障に見舞われたときは

JA営業時間外の場合

事故等の場合

レッカー移動や
故障時の応急対応が
必要な場合

JA共済事故受付センター
ジコは クミアイ
0120-258-931

JA共済サポートセンター
レッカーロードサービス クミアイ
0120-063-931

24時間・365日対応！まずはフリーダイヤルへ！

- ・JA営業時間内のとき
- ・お問い合わせは

JA中春別金融共済課
0153-76-2314



スマホの電話帳
登録をお願いします！

1. レッカーサービス

現場から100km以内のけん引が無料！
クレーン作業などの引き上げにかかる費用
も5万円(税込)までJA共済が負担します。

事故または故障により自力走行
不能となった場合、レッカー車で
現場へ急行し、最寄りの修理工場
等までけん引します。横転、路外
逸脱等による難作業も対応します。



2. ロードサービス

30分程度で対応可能な
応急対応が無料！

故障・ガス欠等により自力走行
不能となった場合に、修理業者
が現場へ急行し、お車の応急
修理を行います。



事前にJAまたはJA共済サポートセンター（JA共済事故受付センター）に
要請された場合に本サービスの対象となります。

ご自身で工場等へ直接手配された場合は本サービスの対象外です。

※トラブルの状況や手配内容によっては、ご利用者様に費用のご負担が発生する場合があります。
※ロードサービスについて、30分を超過した場合の超過時間に応じた作業にかかる費用、部品代・オイル代・ガソリン代等の実費は、ご利用者様のご負担になります。
※JAF会員であるご利用者様については、ご利用者様のご了承のもと、JA共済事故受付センターまたはJA共済サポートセンターからJAF手配する場合があります。
その場合、レッカーサービスのけん引距離については現場から115kmまでのけん引に要する費用をサービス対象範囲とします。ロードサービスの作業時間については30分程度で対応可能な
応急対応に要する費用に加え、30分を超過した場合の超過時間に応じた作業にかかる費用について5,000円を限度にサービス対象範囲とします。

3. 夜間休日 現場急行サービス

JAの営業時間外にJA共済事故
受付センター（フリーダイヤル）へご
連絡いただいた事故について、
JA共済より業務委託を受けた
ALSOKの対応員が事故現場に急
行し、事故状況の聞き取りなどを行
います。



※本サービスの受付時間は、平日:0時～8時、17～24時、土日・祝日:
終日です。
※事故現場からお電話いただき、ご利用者様が現場急行をご希望された
事故が対象となります。
※原則として、対応員の出勤地点から事故現場まで30分程度で到着で
きるが条件です。ただし、高速道路上、離島、山間部など一部の場所は
本サービスの対象外となります。

4. 夜間休日 初期対応サービス

JAの営業時間外にJA共済事故
受付センター（フリーダイヤル）へ
ご連絡いただいた事故について、初
期対応専任のスタッフがご利用者様
からのご相談対応や相手方への迅速
な対応(事故受付の連絡・修理工場へ
の連絡・代車の手配等)を行います。

※本サービスの受付時間は、平日:17時～21時
(対応は22時まで)、土日・祝日:9時～21時(対
応は22時まで)です。
※対人賠償事故(人身傷害事故含む)、対物賠
償事故、車両賠償費用保障特約の付いた車両単独
事故が対象となります。
※ご契約内容が確認できない場合、既にご加入
先のJAの損害調査スタッフが対応中である場合
等、本サービスを実施できない場合があります。

5. 休日契約者 面談サービス

JAの営業時間外にJA共済事故受
付センター（フリーダイヤル）へご
連絡いただいた事故について、休日
面談専任のスタッフがご利用者様を
訪問し事故に関するご質問・ご相談
に親身におこたえます。

※本サービスの受付時間は、金曜:祝前日:17時
～0時、土曜:終日、日曜:祝日:0時～17時です。
※対人賠償事故で、事故の相手方が入院または
死亡された場合が対象となります。
※JA共済より、業務委託を受けた休日面談専任
のスタッフが対応します。

■各種サービスの注意事項（サービスのご利用にあたっては一定の条件があります）
※交通事情、気象状況等により、サービス業者の到着に時間がかかる場合またはサービスのご提供ができない場合があります。
※本資料は各種サービスに関するすべての内容を記載しているものではありません。
サービスのご利用条件・提供範囲など、詳細については「ご契約のしおり・約款」等をご参照ください。

【22014057009】

組合員の広場では、習字や俳句、短歌、絵画、写真など多数の作品を募集しております。
宮農振興課 木下までお気軽にご連絡ください。